

## 感染症科・感染制御科

### ○感染症科・感染制御科の概要

#### 1. 感染症科・感染制御科の特色

感染症は全身のあらゆる臓器を病巣とし、疾患の原因となる微生物が存在する。また社会的に大きな問題となっている院内感染はすべての診療科の患者に発生する可能性があり、どのような専門医になったとしても基本的な知識を習得しておくことが不可欠である。さらに高度先進医療を行う施設から診療所に至るまでいかなる医療機関でも院内感染は発生するため、臨床医である限りはその適切な対応が要求される。感染症科・感染制御科はわが国においてそのような系統的な教育を行っている数少ない診療科であり、すべての臨床医に必要な不可欠な研修を提供する。

#### 2. 診療実績（2016年度）

| 疾患           | 患者数   |
|--------------|-------|
| 耐性菌感染症       | 242 名 |
| 難治性感染症       | 164 名 |
| 非定型病原体による感染症 | 108 名 |
| HIV 感染症      | 93 名  |
| 深在性真菌症       | 55 名  |
| 病棟ラウンド       | 416 回 |

#### 3. 診療スタッフ

前崎繁文（教授）：院内感染制御の実際、感染症の診断と治療、抗菌化学療法  
樽本憲人（講師）：院内感染制御の実際、感染症の診断と治療、抗菌化学療法  
酒井 純（助教）：院内感染制御の実際、感染症の診断と治療、抗菌化学療法

#### 4. 臨床研修プログラムの特色

「新医師臨床研修制度」に掲げられた研修目標のほか、各診療科目で経験できる感染症の診療に関する基本的事項を習得することが可能である。特に、近年の耐性菌対策としても重要視されている「抗菌薬適正使用推進チーム」Antimicrobial Stewardship Team (AST) として、全診療科における感染症診療のサポートに注力している。さらに、微生物学教室ならびに3病院の感染症科とのカンファレンスを通して、幅広い感染症診療を経験できる。将来は内科認定医、総合内科専門医、感染症専門医、Infection Control Doctor (ICD) などを目指す研修医にとっては基礎となる研修プログラムであるが、将来どの診療科を専攻するにしても役に立つ研修内容である。

#### 5. 指導責任者

前崎繁文（教授）  
樽本憲人（講師：指導医）

#### 6. 感染症科・感染制御科の週間予定スケジュール

|     | 午前             | 午後                    |
|-----|----------------|-----------------------|
| 月曜日 | 感染症外来          | AST カンファレンス*、微生物検査研修  |
| 火曜日 | 感染症外来、ICT ラウンド | 院内感染対策カンファレンス、微生物検査研修 |
| 水曜日 | 感染症外来          | AST カンファレンス*、微生物検査研修  |
| 木曜日 | 感染症外来、ICT ラウンド | 微生物検査研修               |
| 金曜日 | 感染症外来          | 微生物検査研修               |
| 土曜日 | 感染症外来          | AST カンファレンス*          |

\* AST : Antimicrobial Stewardship Team

## ○感染症科・感染制御科の学習目標

### 一般目標 (GIO)

臨床医としての感染症の診断および治療に関する基本的な事項を習得するとともに、感染制御の理論と実践を行うことができる。

### 行動目標 (SBOs)

- 1) 感染症の検査法についての理解
- 2) 感染症の検査の介助ができる
- 3) 感染症の検査結果を正しく判定できる
- 4) 感染症の診断(特に院内感染が問題になる感染症)についての実践ができる
  - (1) 薬剤耐性菌についての理解
  - (2) その他の病原微生物についての理解
  - (3) 微生物の進入門戸についての理解
- 5) 感染症の治療を行える
  - (1) 薬剤耐性菌感染症の治療についての理解
  - (2) その他の病原微生物の治療についての理解
  - (3) 適切な抗菌薬の使用方法についての理解
  - (4) 隔離の適応についての理解
- 6) 院内感染制御の理論と実践ができる

### 研修方略 (LS : Learning Strategies)

基本的に午前は感染症外来の枠を担当し、午後は検査部においてグラム染色などの微生物検査手技を学ぶ。さらに、AST カンファレンスにて、血液培養陽性症例を中心に討論し、全診療科における感染症診療のサポートを行う。

感染症外来では各種感染症患者の診断と治療を行うが、特に耐性菌感染症や難治性感染症に対するコンサルテーションでは考え方を学習してもらう。金曜はHIV 感染症外来を行っているので、必ず経験することができる。

微生物検査手技は検査部の技師とともにグラム染色を行えるようになるのと同時に、塗抹標本を観察し、菌種を類推することの参考になる。AST カンファレンスとシームレスに連動し、よりエンピリック治療を適切に行うことができるようになる。また、各種耐性菌や各種抗菌薬の特徴について理解し、感染症診療に対する基本的な考え方を習得する。

さらに院内感染対策を実践するために、火曜と木曜の午前は感染制御を目的とした病棟ラウンドを感染管理認定看護師とともにを行い、各種カンファレンスにも出席してもらう。

感染に関連する英語文献などを読み、感染症に関する理解を深めてもらう。

### 研修評価法 (EV : Evaluation)

研修終了時に研修担当指導医による評価を受ける。EPOC 評価項目の他、各行動目標の達成度につき、本人および評価者と確認する。

### 到達目標と評価表

| 【評価 A : 可 B : 不可】             | 自己評価 | 指導医評価 |
|-------------------------------|------|-------|
| 1. 上級医師の指導の下で、各種感染症の診断と治療ができる | ( )  | ( )   |
| 2. 指導医に適切にコンサルテーションできる        | ( )  | ( )   |
| 3. 症例提示しチーム医療のメンバーと討論ができる     | ( )  | ( )   |
| 4. 耐性菌感染症や難治性感染症に対する考え方が理解できる | ( )  | ( )   |
| 5. HIV 感染症患者の診療計画を作成することができる  | ( )  | ( )   |
| 6. グラム染色などの検査を適切に行うことができる     | ( )  | ( )   |
| 7. 適切な感染制御の知識を持ち、実践できる        | ( )  | ( )   |

研修に関する問合せ先

担当者 樽本 憲人 [tarumoto@saitama-med.ac.jp](mailto:tarumoto@saitama-med.ac.jp)

TEL: 049-276-2032